



教皇様の殷

Libreria Editrice Vaticana,
Città del Vaticanoの転載許可済
© 1991
発行所
財団法人 精道教育促進協会
〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6
☎(0797)31-3452

信仰の光と影

1 少年イエズスの知恵と恩寵を垣間見せるもの一つに神殿での博士たちとの問答の場面をあげることが出来ます。ルカはこの事をイエズスが神と人との前に成長していく様を記した文章には喜んで語っています。そこでは、聖霊について

はつきりとは触れていませんが、聖霊の活動は一連の出来事の中で際立って輝いているようです。事実、福音史家は「聞いている人々は、その子の知恵と答えを不思議がっていた」(ルカ2・47)と記しています。人は、天から授けられたとしか思えない、つまり聖霊に賜わったとしか思えない知恵に驚いています。

2 イエズスを探して三日目に、やっと神殿で学者たちの中におられるのを見つけた両親が、イエズスに尋ねかけた問も深い意味があります。マリアは「私の子よ、なぜこんなことをしたのですか。こら、お父さんと私とは心配して捜してい

たのですよ」と愛情こめて咎められました。イエズスはマリアに「なぜ私を捜したのですか。私が私の父の家にいるはずだと知らなかったのですか」と穏やかな口調で反問されました。(同2・48、49) この「知らなかったのですか」という問を聞く

と、マリアが神殿でその子イエズスを捧げた時、シメオンがすでに預言していた言葉と関係があることに気付くでしょう。そこには将来の別離、すなわち母の心が初めて剣で貫かれることを告げています。聖霊に満たされた義人、老シメオンの言葉は今再び、人々の間に響き渡ります。十

二年前シメオンの言葉が聞えたのと同じ神殿においてです。

しかし、イエズスの答えは、神の独り子であることを充分意識し、自分の務めは父の家、すなわち神殿で父の御業を行うことだ」ということを(この訳も可能である)はつきり表示するものでした。こうして、恐らく初

めて公に自分がメシアであること、他ならぬ神であることを明らかにされました。この出来事は、優れた知性と教智によってなされたものですが、その力は聖霊によって神の言葉に結ばれたイエズスの中に注がれたのです。その時イエズスは、聖霊に満ちた者として語られました。

3 マリアとヨゼフには「イエズスの言われたことがわからなかった」(同2・50)という事実ルカは注目を促しています。この二人が見、そして驚いたという事実は、二人が「闇に包まれていた」ことを示しています。その後も二人はその状態に留まっていた。しかし、彼らが受肉と贖いの神秘を目の当りにしていたということをもっと考慮に入れねばなりません。彼らがその神秘に深く関係したからといって、それを理解していたというにはなりません。二人もまた、信仰の光と影の中にいたのですから。マリアは信仰の巡礼における最初の方でした。彼女は最も多くの光を受けた方でした。しかし同時に、他の誰よりも神秘を受け入れるか否かの試練に立ち向うべき方でもありました。神

の計画に忠実であろうとすることは彼女の務めであったため、じつと心の中で神の思召しを崇め黙想していました。事実「その母はこれらの記憶をみな心におさめておいた」(同2・18、19)とルカは記しています。

4 この内面を見つめ理解しようとする深い黙想は、聖霊の働きを受けてなされました。マリアは(聖霊の)光に与った最初の方でした。後に主が、「弁護者すなわち父が私の名によって送らたもう聖霊はすべてを教え、あなたたちの心に私の話したことをみな思い出させてくださるだろう」(ヨハネ14・26)といっ

て弟子たちにお約束になったあの聖霊のことです。キリストの言葉の意味と大切さを教会と信者に理解させる聖霊はすでにこの時マリアの上

に御母であるマリア、「上智の座」聖霊の花嫁」であり、イエズスの出生に関する福音の使者・最初の仲介者であるマリアは、すでに聖霊の働きを受けておられたのです。

5 ナザレトでのその後の生活でも、マリアは我が子イエズスと彼の身に起ったすべてのことを記憶に留め、じつと静かに考えをめぐらし、恐らく、誰にも心を打明けられなかったでしょう。ほんのわずかな特別な時にしか、息子の語る言葉、息子の投げる眼差しの意味を捉えることができなかったことでしょう。しかし、聖霊は決して彼女の

6 このように、マリアは間違いであると思われず、自ら喜んで聖霊に導かれたいと願ひ、良い土地に時かれた種(マテオ13・23)のように神の啓示を受け入れ、その啓示を理解しようと努め、キリストの神秘の深淵に到達しようとする人々の手本はマリアなのです。(90・7・4)

要理教育と世俗主義

(一) 今日皆さんは、要理教育が直面する難題の内、現代文化の特徴でもある世俗主義と極端な多元主義を特に取り上げておられます。

実際、広まる一方の世俗主義のありを受けて、キリスト信者は信者としての自己を喪失する危険にさらされています。同時に、多元主義は正しく理解しないと、信仰の一致と無欠性(完全性)を脅かし、教会内の一致をも崩壊させかねない状態にあります。

一方、この世俗主義と多元主義の両現象は、信仰の発展と成熟の可能性を内蔵しています。すなわち両現象は、人々に神とこの世との根本的關係について深く考えさせ反省を促してくれまします。これが起るの、宗教的な人生観が健全な世俗主義を伴う時で、経験の多元主義とキリストへの絶対的忠誠心が、一つの教会のもと、愛と誠の積極的連帯感で固く結ばれる関係にある時です。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの尊い助力に感謝いたします。(一) さて、手短ではありますが、いくつかの点を考慮していただきたく思います。

― 教会が提示し、福音が種を蒔いた信仰の真理には、それを受け入れる様な異なる土壌があることを考慮に入れなければなりません。言わなければ、信仰の真理が、世が必要とするものや疑問に答えるよう、注意を払わなければならないのです。宗教の教えを機械的に押しつけることによってではなく、人々を訓育し、神の御言葉に心を開かせるよう努力するのです。

― 現実感のない期待を避け、妥協の畏に陥らないように、カテキスタや司牧に携わる人々、宣教師の皆さんは率直に聖パウロの次の言葉を繰返すべきです。「私は信じた。だから話した」と書き記されているとおり、私たちも同じ信仰の精神をもって信じ、そして話している(コリント④・13)と。すなわち、要理教育に携わる皆さんが神の御言葉を伝えるのは自分が真理を有しており、たとえ人々が耳を貸さず無関心のままでいようと、福音に対する愛と尊敬の念に打たれて、神の御言葉を説得力のある表現で伝えるのが間違いない正しいことだと信じているからであることを充分納得してください。

信仰を提示することの中には、私たちが対話する人々の内なる決意をひきつけ、問題提起を促す力が備わっています。

― それだけでなく、多元主義的な世俗化された世界は言葉の洪水に飽き飽きし、個人の証言に対してより一層敏感になっていきます。世間は、愛の言葉、歓迎と連帯を表す言葉、

1 「飢えた人を良いもので満たし、富む人を空手で返されます。(ルカ1・53)

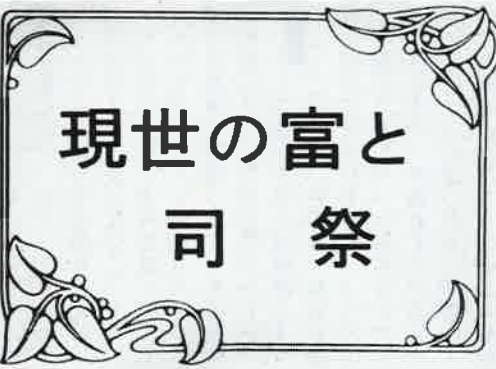
マニフィカトの言葉で、聖母は私たち全てに貧しい人々に対する神の優先的な愛を思い起させてください。優しい父なる神は、現世の富を持っていないでも、この世の物に恩寵をお与えになります。

司祭職に召されている人々は、金銭や現世の財産から特に離脱するよう招かれています。『司祭の役務と生活に関する教令』が示しているように、確かに司祭にも自身の生活を送り、使命を遂行するための財源は必要です。『司祭は正しい生活を送るために天の父から与えられるすべてについて感謝しなければなりません。ただし自分の前に置かれるすべてのものを信仰の光によって識別し、神の意志に応じて事物を正しく用い、自分の使命の妨げとなるものを退けなければならぬ』(17番)と、同文書は勧めています。

2 (一) 神学生は、純粋な奉獻と深い無私の精神をもって聖務のために備えなければなりません。第二バティカン公會議は「むしろ司

特に貧しい人々や低レベルの生活を強いられる人々に対して敏感になつていくようです。カテケージス(要理教育)は、このことを充分考慮に入れておかねばなりません。貧しい人々に奉仕し、あらゆる種類の貧困問題に関心を持つことにより、神の愛は具体的に示されて、信ずる人々は福音の教えの真髄に導かれる

祭たちはすすんで貧しさを喜び、それによってキリストの姿に似そふ明らかに似たものとなり、聖なる役務にいっそう励むものとなるよう招かれていく。キリストは富んでいるにもかかわらず、われわれのために貧しい者となられたが、それはキリ



ストの貧しきによって、われわれが富者となるためであった。使徒たちは無料で与えられた神のたまものは無料で与えるべきものであることをその模範をもって証明し、豊かさの中に生きることも欠乏に耐えることも知っていた。(同17番)

からです。事実、福音の言葉は、全ての人にとっての慈しみであり刷新です。それが効果的な取次となつて全人類を和解させ一致に導きます。皆さん、神はいつも約束された言葉どおりに守ってくださる方ですから、時には骨の折れる仕事にも自信を持って進んでください。皆さんの辛抱強く祈りましょう。皆さんの

神学校での教育によって、青年たちはキリストの清貧を実行できるようになるでしょう。これこそキリストが自ら実行され、また教会の主な司牧的義務を委ねられる人々にお望みになる清貧です。神学校での教育において神学生は、物質的な富を追い求める心を捨て、霊的な王国の証人となるよう準備されるでしょう。そして、せいたくや過度の安楽、あらゆる誘惑を退け、質素をモットーとする生き方を学ぶこととしてしよう。

3 以上のような生き方は、利己心や金銭欲に支配されている世界にとって重要な証言です。司祭は、人生の目的がこの世の財を積むのではないことを示す使命をもっています。別の価値、忍耐によって手に入れる価値、すなわち人格を高め神との親しい交わりに入れるようにしてくれる、もっと高い価値があるからです。

司祭の養成はまた神学生に、キリストの模範と教えにより、貧しい人々を助け、人々に良い知らせを宣べ伝えたいという望みを育てることとしてしよう。貧しい人々を思いやり、最も困っている人を優先的に愛するようにしむけるでしょう。(90・7・8)

目が贖い主の御母マリアに向けられますように。「カテキスタの模範」(ヨハネ・パウロ二世「要理教育に関する使徒的勧告」73参照)であるマリア様が皆さんを守り、与えられた大切な使命を果すのを助けてくださいますように。(ローマで開かれた国際要理教育会議で。90・9・29)

「聖なるロザリオ」

ホセマリア・エスクリバー著
精道教育促進協会スタッフ訳

「祈り方」がカセット・テープに！
このたび、教理出版物のうち霊的読書として使える書物のいくつかを、カセット・テープに録音することに致しました。第一巻は「祈りと神の現

説教・講話・書簡等の抄訳

ロザリオの十五玄義の祈りに表された、キリストの御生涯の黙想書。
定価 一三三六円 一三三〇〇円

聖母マリアの勧め

天主の聖寵の御母(聖マリアの連続)キリストの御母。

今聞いたヨハネの福音の一節は、ガリラヤのカナの婚宴に私たちを導きます。「イエズスの母もそこに来られた。イエズスも弟子たちと一緒に婚礼に招かれた。」(ヨハネ2・1、2) ヨルダン川での洗礼の後、最初の弟子がすでにイエズスと共にいた時、この奇跡は御子としての公生活の出発点となりました。

初めから、キリストはそのメシア



今はお告げの祈りの時刻です。この祈りは、聖母マリアの胎内で神のみことばが人間性をお取りになった託身(受肉)の秘義を毎日思い出させてくれます。

三位一体の祝日を祝う今日の典礼で、マリアが天使のお告げを受けて三位一体の秘義へと特別な方法で導き入れられたことを、深い信仰のうちに思い出しましょう。天使は、主がマリアを神の生命の充滿である恩寵で満たし、共においでになることを告げます。さらにこの挨拶の言葉と共に聖霊の御働き、聖霊がマリアに降り、その影がマリアを覆うことを明かしました。(ルカ1・35参照) 天使のお告げを聞いてマリアは、神の御子の託身(受肉)の秘義、つまり生れる御方はマリアのうちに肉体となられる神のみことばであること

(救い主)としての使命遂行のために「行い、また教えられた。」使徒行録1・1) キリストは、御自身を通してもたらされた神の国についての真理を宣言すると同時に、御父より遣わされた者としての使命を確証する多くのしるしを行われました。

このしるしの最初が、ガリラヤのカナで行われた奇跡です。キリストの「しるし」の一つひとつ、奇跡の一つひとつは、神の全能を表すと共に、キリストにおいて完

を理解しました。(ヨハネ14参照) 三位一体の神による救いのしるしのなかでもこの託身(受肉)の賜は、神が示された御自身の啓示の頂点であり中心です。またそれは、私たちが救うために御自身とその御生涯を

全に成就される永遠の「神の選び」を確認するものです。

マリアは御子を生み、御子において恵みの真の泉をお与えになったので、私たちは当然「天主の聖寵の御母(神の恩寵の御母)」とマリアに祈ることができません。私たちのためにイエズスにとりなし、私たちが必要としている全てのものを得てくださる方は、聖母より他に誰がおられるのでしょうか。マリアはガリラヤのカナでこうなされたのです。母としての直観で、マリアはぶどう酒が尽きたことを御子に伝えました。一見取るに足らないささいなことですが、主人と新婚夫婦にとっては重大なことだったので。(…)

初期に天の元后に、後に聖母の被



マリアは、一体であり三位である神の秘義と交わり、イエズスの御働きによる全人類の救いの恵みの道具となられました。三位一体の命より溢れ出る「恩寵」が充ち満てるまでマリアに与えられ、その特権によりマリアは私たちの「恩恵の世界における母」(「教会憲章61」)となられたのです。

お告げと三位一体

与える主の奉獻の頂点です。「私は父から聞いたことをみな知らせた。」(同15・15) 神は、キリストにおいて真理の言葉を語られ、キリストにおいて贖いの約束を成就させ

このように考えながら、有名な画家マテオ・ディ・ジョバンニが信仰と愛に動かされて描いた聖母像「恩寵の聖母」の甘美な御顔を見つめています。この絵は奇跡を起す作品、敬神と信仰を表した作品として幾世紀もの間この大聖堂(カテドラル)に大切に保存されてきました。

昇天の秘義に捧げられた司教座聖堂は、マリア信心の長い伝統を雄弁に証言しています。もう一つのマリア信心の証拠としてロンバルド教会、司教座聖堂の地下聖堂で尊ばれているすばらしいゴシック様式の慈悲深き聖母像があります。

この像と、市や司教管区の教会に保存されている他のマリア像は、真の神、真の人であるキリストの秘義、ならびに救い主の母と教会の母、すなわち救いの歴史におけるマリアの役割を思い起させます。カナでの婚宴の時のように聖母は子供たちの心からの祈りをずっと聞き続け、いつも気をつけておられる町の保護者として不寝番になり、キリスト者を危険から守り、試練の時に支えられます。憂き人の慰めとして、御自分に頼る人々を保護者として支える強力なとりなしによって、常に慰めを与えてくださるのです。

マリアへの信心は、純粹なものなれどもキリストへ導き、人々の日常生活の事柄のうちに、遅らせたり恐れたりすることなく福音を具体化させるなら、常に励ましとなります。現代の喧騒の只中において、神なる主の声を聞きとり、内的生活の指針とすることは、たやすいことではありません。また困難を克服し、キリスト者の生活そのものとは反対の方向へ行く誘惑を喰い止めることも容易ではありません。カナの時のように、マリアは真の喜びの源がキリストにあることを思い起させます。聖母は私たち一人ひとりをお子イエズスの方へと導き、繰り返し言われま

「何でもあの人の言うとおりにしなさい。」

そうです、人間の真の善の神秘と内なる平和の消えることのない源はイエズスの内にこそあるのです。

ガリラヤのカナでイエズスがなされた最初の奇跡について語る時、福音史家はこう記しています。「その栄光を示されたので、弟子たちはイエズスを信じた。」(ヨハネ2・11)

神の御母は、イエズスの救いの使命のため、とりなしのつとめを自立たぬ仕方で摂理的に果されました。たえず心を配りよく気のつくマリアは、「しるし」を要求します。それは、いざれ広範に及ぶはずの出発点となるしるしでした。マリアは自分に委ねられた子供たちを、決して見捨てません。ですから、それを知っている人々は信頼して聖母の足元に馳せ寄り、ひざまずきます。

今日の典礼は、「人々にふりかかった災いを黙って見ていることはできない」というエステルという言葉の思い起しながら、このことを強調しています。「聖寵の御母」は今日もまたとりなしてください。聖母は私たち一人ひとりのそばにおられ、神の慈しみにあふれた愛の力ある仲介者としてとりなしをなさいませ。(…)

「神と人間の間の仲立ちも、キリスト・イエズスただ一人である。」(テイモテオ①2・5) キリストの御前に、人々の数多くの心配事を取り次いでくださる聖母マリアは、同時に神の御旨によって人々に要求されていることをもお示しになります。この点から見ると、ガリラヤのカナで給仕人に言われた「何でもあの人の言うとおりにしなさい」(ヨハネ2・

【予約】 税・送料込みで1巻二五〇〇円です。通勤電車や車中の霊的読書として、また目の不自由な方々のために、お役に立てればと存じます。お申し込み先 659 芦屋市船戸町12-6 精道教育促進協会

不変の教え

5) は再び重要な意味を持ってきます。これは救いの歴史の大きな広がりの中で響き渡る言葉、御子の使命を最大の関心事とする御母の言葉、神の御国が人々の中に、そして世界中に建設されるよう熱望する聖母の言葉、自らの全てを御子に関わる事柄に捧げ続ける神のはためき口にされた言葉です。

永遠の御父が「私たちを選び、愛によって聖である者、汚れない者とする」(エフエゾ1・4)のは、実にキリストにおいてです。キリストにおいて、キリストを通して、神は御旨により私たちを神の養子にするようお定めになりました。御父は愛する御子において私たちに神の恵みを与えてくださったのです。

マリアは「天主の聖寵の御母」であり、神が人類に関して心に抱いておられる永遠の救いの計画に完全に自らを捧げた方です。

マリアの心からの望みは、エフエゾ人へのすばらしい手紙にあるように、「私たちが、神の光栄の誉れとなる」(1・12) ことです。

ですから聖母は私たちがキリストに希望をおくことを望んでおられます。(前出参照)

ガリラヤのカナで現されたこの望みは、決して衰えません。御母は絶えず私たちを御子へと導いておられます。そして、マリアは常に繰り返されます。「何でもあの人の言うとおりにしなさい。」

言う通りにする。そうすれば、神の恵みはあなたの内で無駄になることはないでしょう。(コリント①15・10)アーメン。(90・7・2)

神学生と感謝の祭儀

親愛なる兄弟姉妹の皆さん。

お告げの祈りの中で「みことばは人となり給い、われらのうちに住み給えり」と唱える時、託身(受肉)の中心となる秘義を思い起します。ところで託身の秘義は特に、秘跡的に聖体において継続されています。聖体祭儀を行う度に、人となられたみことばが私たちの間に存在なさるのです。

教会生活の中で、聖体が根本的な重要性をもつことを考えれば、司祭職というかけがえのない役割が理解できます。司祭なしには聖体祭儀は執行されません。ですから、第二バテカン公会議も司祭の主たる聖務は聖体祭儀にあると述べています。聖なることを執り行う役務のうちで聖体祭儀こそ他のいかなる役務にも勝るものです。(『司祭の役務と生活』13参照) 聖体は教会の秘跡的生活の中で頂点をなします。また、聖体はキリスト者の日々の生活に最大の影響を与えるものです。

司祭に召された人は聖体祭儀に、特別な教育を受ける必要があります。司祭の養成に関する問題の中でこの点を特に強調しなければなりません。

叙階候補者は、まず第一に聖体祭儀に対する強い信仰をもっていなければなりません。イエズスはこの秘

跡を最初に告げられた時、弟子たち

——司祭職を最初に行使する人たちに聖体への信仰告白を求められました。12人に代ってその信仰宣言をしたのはペトロでした。これによってわかるように、教会の中で聖体祭儀を司る責任を有する司祭は、

復活祭の準備として、キリスト信者は司祭より罪の赦しを受けるために赦しの秘跡に近づきます。司祭が和解の役目を担うことをキリストはお望みになりました。御存じのように、復活された主は聖霊の賜と一緒に罪を赦す権能を弟子たちにお与えになりました。「聖霊を受けよ。あなたたちが罪をゆるす人にはその罪がゆるされ、あなたたちが罪をゆるさぬ人はゆるされない。」(ヨハネ20・22・23) 罪を赦すという神的権能が特定の人に委ねられたのです。その結果、罪を告白する人は目に見える印を通して、確かに赦しを得たと確信することができるようになりました。この秘跡は、慈しみ深い神のすばらしい発明といえるでしょう。赦しの秘跡は、平和と喜びの源です。

2 神の愛あふれる御計画に気づいた聖パウロは、自らが担う「和睦の役目」を自覚し、コリントのキリスト信者に勧告しました。「神

と和睦してとどまれ。事実、パウロはどうすればキリストの使者となれるか、御自ら望んで赦しをお与えられるのかを知っていました。赦しを与えるという神の望みは十字架の犠牲の中に完全に明らかにされました。神は十字架上のキリストを通して私

キリストを秘跡的に捧げること、聖体拝領によってキリストが御自分の体と血をお捧げになること、信者が崇拝するよう招かれている聖体のうちに常に現存なさることを深く信じていなければなりません。

従って、神学生は日々の聖体祭儀に与るよう勧められています。将来、司祭生活をする時の習慣となるためです。それに加え、聖体祭儀を一日の生活の頂点とし、消極的な参加に満足せず、積極的に与っていくようにするのです。

最後に、司祭職を志す人は、聖体

祭儀によって高められ、内的心構えを徹底的に養われることでしょう。主から頂いた恵みへの感謝(エウカリスティアとは感謝の意)、自身の奉獻をキリストの御聖体に結びつけようとする自己犠牲の態度、一致と分かち合いのしるしの秘跡に養われる愛徳、秘跡の外観のもとに、真に現存されるキリストを眺め崇拜したいという望みを培うのです。

聖母マリアの取次によって御子が聖体祭儀を熱心に行う人々を与えてくださるよう、心をこめて祈りましょう。(90・7・1)

3 (一)秘跡を受けるには、まず何よりも自分の中で罪の意識をはっきりさせること、神の掟に従わず逆らったことにまず気づくことです。現代世界では罪の意識は失われてしまったかのように思われることがありますが、司祭を目指す方は罪のもつ重大な悪に対する意識を深めなければなりません。

さらに、罪を犯した人々に大きな愛を示し、罪人の仲間と言われたキリストの心に一致しなければなりません。(マテオ11・19参照) そして、過ちを犯した人々に対して、その人の救いを得るといふ望みの内に、深い「あわれみの心」を養わなければなりません。

いと清く、慈悲あふれる聖母に、和解の役務の実行を進めるための助けを願います。(90・4・1)

聴罪司祭の養成

(コリント②5・18・20参照)

司祭は、キリストの名において神と人々と和睦させる崇高な仕事を使徒たちから受け継ぎました。司祭は聖パウロがしたように、キリストの使者として、キリスト信者に赦しの秘跡を通して神と和睦するように勧

『教皇様の声』ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙 毎月 十日発行 定価 一部八十円 送料実費
 一年予約九〇〇円 送料六〇〇円 二十部以上の一括購入なら送料不要
 郵便振替 神戸 3-72393